



巡邏は又夜半の頃ある所の明放する家も有故
 し盗賊の忍び入るやと立ち窺ふは内は聲有
 虎狼の如く知くあるは内は入るは面色真
 黒なるの眼を先き生ぐとき息をきりけり
 握みたる有様面をひきく巡邏忽ち大聲
 と聲に汝執獲せし巡邏と云ふと云へ
 カ黒面も大音にて汝巡邏と偽り盗賊と
 と怒る聲人語る故五長とひて云ふま
 五長の黒面も驚きうしく見是與家の主人今故不
 思義なるも黒面の試と云ふは新思ひ出して失敬を
 詫ひ我小僧は隣家の酒宴に酒酔の上にて黒面ぬり
 拳とにけり我小僧は相手は勝事ありてふく満面も黒
 とめは其後騙し前後もふを戸を明放して森とさ
 つた次第とほりも全く我小僧が大酒より我にさうといふ
 詫ひに故と薄らりと大坂新聞紙上ありアなりむ
 べくハ酒を慎むべし

新聞圖會第百三十九号

笹木芳龍



八尾 政七